

議員派遣結果報告書

1	名 称	第2回市町村議会議員特別セミナー
2	場 所	滋賀県大津市 全国市町村国際文化研究所 (JIAM)
3	期 間	平成30年8月2日 (木) から3日 (金) までの2日間
4	内容・成果	<p>「豊かな長寿社会を将来世代に」 清家篤志講師 (慶応義塾大学教授)</p> <p>少子高齢化と将来の世代への負担の減らし方などについて講演を受けた。 少子高齢化は成功の証である。歴史上一人ひとりの所得が増えれば高齢化をもたらす。 例えば、長寿は衛生環境「感染症予防 (上下水道整備等)・住環境の充実 (エアコン普及等)」や栄養「食生活の充実」や医療水準の高度化など。少子は現在は少子少産、昔は多産多死であった。長寿も少子も貧困な国、国民所得が低ければ無理であるという内容には意見がほぼ一致していた。 今後の労働力人口の見通しは海外労働者 (移民制度) や年金、税制改革 (配偶者控除廃止等) で女性活躍をどこまで進められるかが争点になってくるとのことであった。 将来に負担を軽減するなら、介護離職問題や介護をし過ぎない条件整備 (介護認定のあり方、自立のため手助けし過ぎない等) 医療の在り方など、社会保障問題に早急に厳しく着手しなければならないという点でも難しいが同感できた。 最後に豊かさを引き継いでいくために税財源をもっと子育てや看護に投入をとという話があり、逆にこれ以上年金や介護に使いすぎないことの提言をされて終了した。</p> <p>「地方行政を取り巻く状況と地域づくり」 池田憲治 (全国市町村国際文化研修所学長)</p> <p>急きよ、講師変更であったため、国や地方の現在状況や将来の見通しの説明が主だったため提案はほとんどなかった。地方創生や移住定住などの先進地の説明を受け、勉強会のような講演であった。しかし、自分の事業や数字の勘違いなどもあったりしたので復習になり有意義であった。</p>

「変化する地方行政と議員の役割」
山田啓二（前京都府知事）

多様化した社会に対応し地域に合った新しい自治体を作れという元知事らしくユーモアを交え面白く引きつけられる良い講演であった。

行政が出す資料は、15年くらい先の見通しは都合よく作成されているため信じるなどが議員として調査をもっとしなさいと叱咤激励をされた。

自治体は最たる多様化の受け入れ体であり、ソーシャルネットワークの時代に多様化を拒否出来ない。多様性のない自治体は未来がない。ならば認めて、受け入れて可能性を生み出そう。そのための京都での取組みや地方議員は多様性を代表し、それをコーディネーターすべきという取組みへのヒントを頂いた。

「インクルーシブ社会に向けて」

永瀬充（バンクーバーパラリンピック、パラアイスホッケー銀メダリスト他）

バスケットに一生懸命な高1少年が、急な両手両足マヒの病気「CIDP（慢性炎症性脱骨性多発根神経炎）」で自分を見失う中、3年後、パラアイスホッケーを知り立ち直っていく。バンクーバーパラリンピックで引退後、北海道新聞パラスポーツアドバイザーとしてアスリート雇用をしてもらい、しょう患者スポーツの普及、取材活動、講演活動を行っている。

しょう患者にやさしい社会は当然だが、あまり気を使いすぎない、何でもかんでも助け過ぎない事も大事（自立）であり、バリアフリーも一人一人、内容が違うのでやり過ぎては駄目との意見を持っておられた。弱者ではなく健常者と一緒の扱いで主役になりたいと思っている方が多いとの事。

IM POSSIBLE（インポッシブル・不可能）ではなく

I, MPOSSIBLE（アムポッシブル・私はできる）という考え方がしょう患者の方たちの合言葉であるという素晴らしい発言を聞いた。今後の糧となる研修となった。